

主要産地における平成30年産水稲の収穫量及び作柄概況等について 第2報（10月1日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成30年10月2日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）			作況			作柄	一等米比率	
	予想収穫量 (30年9月15日 現在)①	予想収穫量 (29年9月15日 現在)②	前年産 との比較 (①-②)	作況指数 (30年9月15日 現在)③	前年産 (29年9月15日 現在)④	前年産 との比較 (③-④)		30年産水稲 うるち玄米 1等米比率 (30年8月末現在)	29年産水稲 うるち玄米 1等米比率 (29年8月末現在)
	t	t	t					%	%
全 国	7,374,000	7,313,000	▲ 61,000	100	100		…	69.1	68.4
北 海 道	488,600	552,200	▲ 63,600	90	102	▲ 12	平年並み		
青 森	236,800	225,300	▲ 11,500	101	99	▲ 2	やや不良		
岩 手	266,900	252,900	▲ 14,000	102	100	▲ 2	やや良		
宮 城	355,400	342,300	▲ 13,100	103	100	▲ 3	平年並み	100.0	96.8
秋 田	420,000	398,200	▲ 21,800	98	99	▲ 1	やや良		
山 形	334,500	337,800	▲ 3,300	99	101	▲ 2	やや不良	-	100.0
福 島	343,900	328,900	▲ 15,000	102	100	▲ 2	平年並み	97.0	91.6
茨 城	350,700	349,300	▲ 1,400	99	100	▲ 1	やや不良	87.4	96.9
栃 木	302,500	273,400	▲ 29,100	102	93	▲ 9	平年並み	96.9	100.0
埼 玉	149,700	148,300	▲ 1,400	99	99	0	平年並み	10.3	87.7
千 葉	292,100	290,000	▲ 2,100	99	100	▲ 1	不 良	93.7	96.3
新 潟	563,300	529,600	▲ 33,700	98	97	▲ 1	平年並み	57.6	85.1
富 山	184,100	182,500	▲ 1,600	102	101	▲ 1	平年並み	89.4	91.6
石 川	120,600	120,400	▲ 200	100	100		平年並み	86.9	88.6
福 井	124,800	122,300	▲ 2,500	101	101		平年並み	92.4	94.3
長 野	195,300	196,600	▲ 1,300	101	101		やや良	100.0	100.0
滋 賀	154,100	155,100	▲ 1,000	99	100	▲ 1	平年並み	83.6	83.0
兵 庫	176,400	174,400	▲ 2,000	99	100	▲ 1	平年並み	60.0	65.8
岡 山	155,200	156,600	▲ 1,400	101	102	▲ 1	平年並み	81.8	73.2
広 島	120,500	122,000	▲ 1,500	101	101		やや良	39.0	52.2
愛 媛	70,300	70,300		101	102	▲ 1	やや不良	30.2	35.6
高 知	50,400	54,100	▲ 3,700	96	103	▲ 7	やや不良	23.5	18.6
福 岡	183,600	179,000	▲ 4,600	105	103	▲ 2	やや不良	13.8	11.5
熊 本	172,800	169,100	▲ 3,700	104	102	▲ 2	やや不良	22.5	23.6
宮 崎	73,100	75,800	▲ 2,700	100	102	▲ 2	平年並み	65.3	46.6
鹿 児 島	87,800	98,400	▲ 10,600	99	104	▲ 5	平年並み	35.2	18.9

注）高知県、宮崎県、鹿児島県の作柄（登熟の良否）は早期栽培についての評価。

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）
北海道	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数は「少ない」となった。これは、6月中旬から7月中旬の低温・日照不足の影響により、穂数が少なくなったためである。登熟は「平年並み」が見込まれる。これは、8月中旬から下旬にかけて低温・日照不足で経過したものの、9月上旬以降は天候が回復したことから、粒の肥大・充実が平年並みに進むものと見込まれるためである。（北海道農政事務所 9月28日付）
青森	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は598kgとなり、前年産に比べ2kgの増加が見込まれる。これは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が8月中旬以降の日照不足により「やや不良」と見込まれるものの、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は平年に比べ「やや多い」となったことによる。（東北農政局 9月28日付） 9月20日現在の稲刈進捗は、県全体で1%となり、平年並だった。（青森県 9月21日付）
岩手	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は547kgとなり、前年産に比べ14kgの増加が見込まれる。これは、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年に比べ「やや多い」となり、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）は、出穂期以降おおむね天候に恵まれ、初期登熟が順調に推移したことから「やや良」と見込まれることによる。（東北農政局 9月28日付）
宮城	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は551kgとなり、前年産に比べ16kgの増加が見込まれる。これは、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年に比べ「やや多い」となり、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）は出穂期以降おおむね天候に恵まれ、初期登熟が順調に推移したことから、「平年並み」と見込まれることによる。（東北農政局 9月28日付）
秋田	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は560kgとなり、前年産に比べ14kgの減少が見込まれる。これは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が出穂期以降おおむね平年並みの気温で推移したことにより「やや良」と見込まれるものの、6月の低温・日照不足により穂数が少なかったことから、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年に比べ「やや少ない」となったことによる。（東北農政局 8月31日付） （秋田）管内の水稻の刈取り状況は平年並みで、順調に進んでいる。（9月28日付） （由利）収穫作業は、9月25日現在の作業進捗率は9.8%（平年15.3%）。（9月28日付） （仙北）9月25日現在の管内の刈取り作業進捗率は14.9%（平年25.9%）で、降雨のため平年よりも作業が遅れている。（9月28日付） （北秋田）9月25日現在、北秋田管内の刈取り進捗状況は約13%と平年より遅れている。刈取り始期は9月23日と平年差+1日。（9月27日付） （秋田県）
山形	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は593kgとなり、前年産に比べ5kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が「平年並み」となり、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）は8月下旬以降の日照時間が平年を下回って推移したことから、「やや不良」と見込まれることによる。（東北農政局 9月28日付） （北村山）「はえぬき」「つや姫」とも刈取り晩限期に到達している。刈取りの遅れた早生種では、薄茶米や胴割粒が若干見られた。（村山総合支庁農業技術普及課 10月1日付）
福島	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の10a当たり予想収量は562kgとなり、前年産に比べ13kgの増加が見込まれる。これは、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年に比べ「やや多い」となり、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）は出穂期以降おおむね天候に恵まれ、初期登熟が順調に推移したことから、「平年並み」と見込まれることによる。（東北農政局 9月28日付）
茨城	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数が平年並みであったことから「やや多い」となった。登熟は、出穂期以降も気温の高い状態が続き、粒の肥大が抑制されたことから「やや不良」が見込まれる。（関東農政局 9月28日付）
栃木	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は、穂数が多く、1穂当たりもみ数がやや少なかったことから「やや多い」となった。登熟は、高温の影響があったものの、おおむね天候に恵まれたことから「平年並み」が見込まれる。（関東農政局 9月28日付）
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや少なかったことから「平年並み」となった。登熟は、8月下旬の高温の影響により不稔がみられるものの「平年並み」が見込まれる。（関東農政局 9月28日付）
千葉	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや多かったことから「多い」となった。登熟は、8月中旬以降も高温の状態が続き、粒の肥大が抑制されたことから「不良」が見込まれる。（関東農政局 9月28日付）
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は、6月以降の少雨の影響等があったことから、「やや少ない」となった。登熟は、8月下旬以降の日照時間が平年を下回っているものの、全もみ数がやや少ないことの補償作用があることから、「平年並み」と見込まれる。（北陸農政局 9月28日付）
富山	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、田植期以降、概ね高温多照で経過したことから、「やや多い」となった。登熟は、出穂期以降、概ね日照時間が確保されていることから、「平年並み」と見込まれる。（北陸農政局 9月28日付）

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
石川	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数は、6月下旬以降高温多照で経過し、生育が概ね順調であったことから、「平年並み」となった。登熟は、出穂期以降、概ね日照時間が確保されていることから、「平年並み」と見込まれる。 (北陸農政局 9月28日付)
福井	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数は、田植期以降、概ね高温多照で経過したことから、「やや多い」となった。登熟は、出穂期以降、概ね日照時間が確保されていることから、「平年並み」と見込まれる。 (北陸農政局 9月28日付)
長野	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は、穂数がやや少なく、1穂当たりもみ数がやや多かったことから「平年並み」となった。登熟は、9月上旬以降の天候は曇雨天の日が多く日照時間が平年を下回ったものの、8月が高温・多照に経過したことから「やや良」が見込まれる。 (関東農政局 9月28日付)
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「平年並み」となった。登熟は、7月下旬に接近した台風第12号の影響により稔実の低下がみられるものの、出穂期から8月下旬までの気温及び日照時間が平年を上回ったことから「平年並み」が見込まれる。 (近畿農政局 9月28日付)
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「平年並み」となった。登熟は、9月上旬以降、日照時間が平年を下回って推移しているものの、出穂期以降、気温及び日照時間がおおむね平年並みに推移していることや全もみ数が平年並みとなったことから「平年並み」が見込まれる。 (近畿農政局 9月28日付)
岡山	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は、中北部、南部、県全体ともに「平年並み」が見込まれる。登熟は、中北部では7月下旬から8月にかけて高温多照で推移したものの、9月上旬から中旬が低温寡照で推移したため「平年並み」が見込まれる。南部では中生品種の出穂期初期から中期にかけて高温多照で推移したため「やや良」が見込まれ、県全体では「平年並み」と見込まれる。一部の地域で平成30年7月豪雨の影響が見られるが、被害は限定的となっている。 (中国四国農政局 9月28日付)
広島	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は「やや少ない」となった。登熟は、全もみ数がやや少なく、8月が全般的に高温・多照で経過したことから、「やや良」と見込まれる。平成30年7月豪雨により、南部を中心に一部の地区にて土砂流入、流失及び埋没等の被害が発生した。 (中国四国農政局 9月28日付)
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> 全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は「多い」となった。登熟は、9月以降は、寡照で推移していることに加え、全もみ数が多いことによる相反作用により「やや不良」と見込まれる。一部で平成30年7月豪雨の影響が見られるが、県全域で見ると被害は限定的となっている。 (中国四国農政局 9月28日付)
高知	<ul style="list-style-type: none"> 早期栽培 全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は「やや少ない」となった。登熟は、平成30年7月豪雨の影響により「やや不良」となった。 普通期栽培 全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)は「やや少ない」となった。登熟は、出穂期以降、台風や秋雨前線の影響により、「やや不良」と見込まれる。 (中国四国農政局 9月28日付)
福岡	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨明け以降高温・多照に経過し、全もみ数が増えていることから、10a当たり予想収量は平年を上回る526kg(作況指数105)が見込まれる。 (九州農政局 9月28日付)
熊本	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨明け以降高温・多照に経過し、全もみ数が増えていることから、10a当たり予想収量は平年を上回る535kg(作況指数104)が見込まれる。 (九州農政局 9月28日付)

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
宮 崎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期栽培 全もみ数は、穂数が「やや少ない」となったものの、1穂当たりもみ数が「やや多い」ことから、「平年並み」となった。 登熟は、幼穂形成期から出穂期にあたる5月下旬から6月中旬にかけて日照時間が平年を下回ったものの、7月中旬以降は平年を上回って経過したことから、「平年並み」となった。 ・ 普通栽培 もみ数が「やや多い」となったものの、9月上旬以降の日照時間が平年を下回って推移しており、登熟は「やや不良」が見込まれることから、10a当たり収量は平年並みの511kg（作況指数101）が見込まれる。 <p>（九州農政局 9月28日付）</p>
鹿 児 島	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期栽培水稲 全もみ数は、穂数が「平年並み」となったものの、1穂当たりもみ数が「やや多い」ことから、「やや多い」となった。 登熟は、幼穂形成期から出穂期にあたる5月下旬から6月下旬にかけて日照時間が平年を下回ったものの、7月中旬以降は平年を上回って経過したことから、「平年並み」となった。 ・ 普通期栽培水稲 幼穂形成期の日照時間が平年に比べ少なく、もみ数が「やや少ない」となったものの、8月中旬以降おおむね天候に恵まれ、登熟は「平年並み」が見込まれることから、10a当たり収量は平年並みの489kg（作況指数99）が見込まれる。 <p>（九州農政局 9月28日付）</p>

注1：自治体等公表資料については、農林水産省農政局等、地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

参考資料

農林水産省(農政局、北海道農政事務所) 平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況、
農林水産省 平成30年産米の農産物検査結果(速報値/平成30年8月31日現在)、
農林水産省 平成29年産米の農産物検査結果(速報値/平成29年8月31日現在)、

稲刈り進捗状況(9月20日現在)(青森県 9月21日)
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/>)、
北村山のおいしい米づくり情報第11号(村山総合支庁北村山農業技術普及課 10月1日)